



下関市指定有形文化財(建造物)

いん じょう じ さん もん

引接寺三門

所在地：山口県下関市中之町 11-9 引接寺

指定年月日：昭和 58 年(1983)5 月 26 日



【解説】

引接寺は浄土宗寺院で、当初は豊前国黒田村(福岡県京都郡みやこ町勝山黒田)にあったと伝わるが、詳細は不明である。

永禄 3 年(1560)、この地の亀山八幡宮の麓に建立され、山号を関亀山かんきざんと号す。慶長 3 年(1598)、小早川隆景の菩提を弔うため、藤堂佐渡守高虎が現在地に広大な堂宇を建立し引接寺を移した。以後、赤間関の有力町人や長府藩の庇護を受けるとともに、萩藩によって朝鮮通信使の客館としても整備されるなど、寺勢は隆盛を極めた。

また、明治 28 年(1895)春には、日清講和会議のため来日した李鴻章一行の宿舎となり、李鴻章狙撃事件とも相まって、寺名は国際的にも名高い。昭和 20 年(1945)6 月 29 日、引接寺の堂宇の大半は戦禍により焼失したが、三門はこれを免れ、往時の様子を伝えている。

この三門は、明和 6 年(1769)8 月に長府藩九代藩主毛利匡満もうり まさみつが再建したものである。また、花崗岩四半敷しはんじきの基壇は、慶長期の建立時のものと推定されることから、当初の構造形式を踏襲して再建したものと考えられている。

*よつあしもん
三門は四脚門よつあしもんの形式であり、屋根を本瓦葺きとし、両側に脇門ふたてさきを設け、柱を総円柱とする。門の内部を二手先の組物ふたてさきを使い、鏡天井とする稀な例であり、また、龍の彫物は意匠的に優れている。



【二手先の組物を使った鏡天井と龍の彫物】



【四半敷の基壇】

* 四脚門:2本の主要な柱の前後に4本の柱を立てた門